老人性声帯溝症に対する白虎加人参湯の治療効果

新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央綜合病院 耳鼻咽喉科（新潟県）　田中 久夫

声帯溝症は声帯に溝状の変化が生じ、発声障害が生じる疾患である。加齢による声帯萎縮の影響も受けるため、高齢者で多く見られる疾患である。治療法は確立されておらず、臨床現場では音声治療や外科的治療が行われているものの、半数近くは治療を受けていない。今回、滋潤作用と清熱作用を併せ持った白虎加人参湯を用いて老人性声帯溝症に対する有用性の検討を行なった。対象は嗄声を主訴とする60歳以上の声帯溝症の患者54例で、白虎加人参湯の錠剤を2週間投与し、希望者には音声治療を併せて実施した。結果として、他覚的には大きな変化はないものの、自覚症状において74.1%と高い改善率が認められた。また、音声治療の併用の有無で分けて検討を行なったところ、両者に大きな差がなかったことから、老人性声帯溝症に対して第一選択薬となり得る可能性が示唆された。

Keywords　白虎加人参湯、老人性声帯溝症、声帯萎縮

はじめに

声帯溝症は声帯の前後方向に溝状の変化が生じることで起こる声門閉鎖不全をきたす疾患である。高齢者の場合、加齢や会話コミュニケーションの減少などにより声帯萎縮が生じやすく、70歳以上では60%以上の割合で声帯に溝状の変化を認める。症状は嗄声などの発声障害だけでなく、運動能力の低下や嚥下障害を引き起こすことからQOLの低下につながる。しかしながら、現在のところ治療法は確立されておらず、臨床現場では声の衛生や音声訓練といった音声治療や、ヒアルロン酸や自家組織の注入などの外科的な治療がされているものの、特に治療を受けていない患者も半数近くいるといった報告もある[1)]。また、治療を行ったとしても根本的な治療法ではないものも多く、患者の治療満足度は高くない。

喉に潤いを与えることを期待して、滋潤作用を持ち、口渇にも使用される白虎加人参湯に注目した。今回、60歳以上で声帯筋の萎縮が認められる老人性の声帯溝症に対し、白虎加人参湯の錠剤を用いて有用性を検討したので報告する。

対象と方法

2015年8月から10月の間に当院を受診した60歳以上の嗄声（声がカサカサする、音量が減った、声が通らないなど）を主訴とした患者で、声帯筋の萎縮が認められる老人性の声帯溝症の患者54例を対象とした。まず患者には、所定の用紙（**図1**）と電子内視鏡で撮影したビデオで疾患の病状を説明し、加齢現象のため年齢とともに悪化すること、治療は声帯筋の萎縮を治す根本的な治療ではないことなどを理解してもらう。その後、白虎加人参湯エキス錠（12錠/日、分3）を原則2週間投与し、自覚症状の評価を行なった。なお、希望者には音声治療（「声の衛生」の説明もしくは言語聴覚士による音声訓練）を実施した。

結　果

老人性の声帯溝症の患者54例に対して、白虎加人参湯の錠剤を投与したところ自覚症状が悪化した症例はみられず、改善が74.1%、不変が25.9%で認められた（**図2**）。

また、音声治療の併用の有無で検討を行なったところ音

図1　患者用疾患説明用紙

説明用紙

病名／　声帯溝症（声帯萎縮）

ある程度の年齢以上の人で、声のかすれが起こり、多くは力が入らないとか、カサカサした感じ、といった訴えをされる方が多いようです。
これは声帯の筋肉が痩せると起こる症状で、声帯がぴったり閉まらなくなり、隙間から声が漏れてしゃがれ声になります。年齢的に、手や足の筋肉が痩せるのと同じ現象が声帯にも起こっていると考えます。
声帯に潤いを与えるヒアルロン酸の減少も一因です。
治療はボイストレーニング（声帯の筋肉を鍛えるリハビリ）を行うのが通常ですが、潤いを増やす意味で、唾液の分泌を増やす薬や部屋を加湿する方法もあります。
また、それぞれで声帯のダメージを与えていると考えられる原因に治療を行う場合もあります。
手術的にヒアルロン酸を注入する方法もありますが、3〜6ヶ月ごとに注入が必要ですし、効果も確実ではありませんので、あまりお勧めできません。

新潟県長岡市川崎町2041番地
新潟県厚生農業協同組合連合会
長岡中央綜合病院
耳鼻咽喉科　　医師　田中 久夫

上記に説明を受けました。　　平成　　年　　月　　日

氏名

声治療を行った群は34例で、そのうち改善は76.5%、不変は23.5%であった。一方、音声治療を行わなかった群は20例で、そのうち改善は70.0%、不変は30.0%であった(**図3**)。

なお、調査期間中、本剤によると考えられる副作用は認められなかった。

考　察

声帯溝症は声帯の前後方向に溝状の変化が認められ、それによる声門閉鎖不全が生じる疾患である。特に70歳以上の男性に多く、加齢による声帯萎縮を含めると60%以上の割合で声帯に溝状の変化が認められる[1)]。加齢や炎症によって増悪していることから声の濫用説が考えられているが、30歳未満の若年者にも認められることから先天性の発生説なども示唆されており、今のところ詳しい原因は明らかにはなっていない。症状は嗄声などの発声障害だけでなく、力が入らないことによる運動能力の低下、さらには咳やムセ、誤嚥などの嚥下障害が生じることから、QOLの低下につながる疾患である。現在、確立された治療法はなく、臨床現場では音声治療や外科的な治療が実施されている。音声治療は声の安静や多用・乱用の予防を指導する「声の衛生」と言語聴覚士による音声訓練がある。欧米では音声訓練が第一選択であるが、日本では言語聴覚士や音声治療が一般的ではない。また、治療を行ったとしても溝状変化や萎縮に対して物理的な改善は期待できない。一方、外科的治療は声帯内にヒアルロン酸や自家組織(脂肪、筋膜など)を注入する。ヒアルロン酸などの注入は効果の持続性が問題となり、自家筋膜の移植では、高齢者の場合、老化した細胞の移植となるため、効果が高くないなどの問題がある。また、治療を希望しない場合もあり、47%の患者は治療を受けていない[1)]といった報告があることからも、患者満足度は高くないと考えられる。

図2　改善率(n=54)

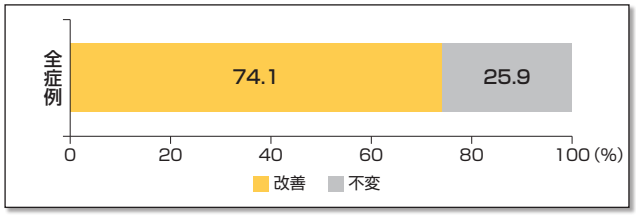
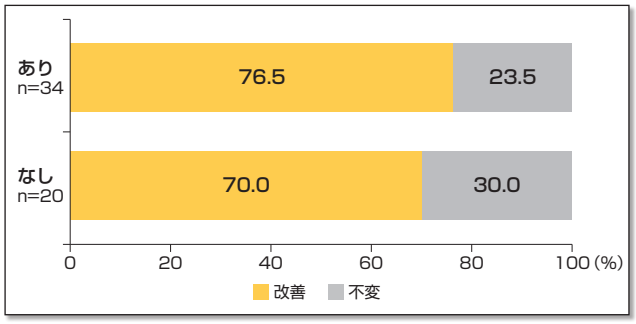


図3　音声治療の併用の有無による改善率



声帯溝症の患者は水を飲むと話しやすくなると訴えることが多い。このことから、喉の潤いとクールダウンが一つの治療手段であると考えた。白虎加人参湯は5つの生薬から構成される漢方薬で、石膏・知母による清熱作用、また石膏・人参・知母・粳米・甘草による滋潤作用を併せ持った薬剤である。元々は急性熱性疾患に用いる処方であったが、近年は慢性疾患にも使用され、アトピー性皮膚炎などのほてり[2)]や高齢者の口腔乾燥症状[3)]に対しての有用性も報告されている。また薬理学的にも唾液分泌促進作用[4, 5)]があり、声帯溝症に対する応用が期待できた。

今回、60歳以上の嗄声を主訴とした老人性の声帯溝症に対して白虎加人参湯を投与したところ、他覚所見では大きな変化はないものの、74.1%で自覚症状の改善が認められた。白虎加人参湯の直接的な抗炎症作用だけでなく、喉を潤すことで発声の際の力みが減少し、炎症の悪化を抑える可能性も期待できる。抗炎症作用もしくは滋潤作用のどちらか一方ではなく、両方の作用を併せ持つことが重要であると考えた。今回の検討では2週間という短期投与だったこともあり、他覚的な効果は認められなかったが、今後は他覚所見も含めた長期投与による進行抑制についても検討したい。また、音声治療の併用の有無で分けた検討において両者に大きな差は認められなかったことから、言語聴覚士や音声治療が普及していない日本では白虎加人参湯が第一選択の治療法となり得る可能性が示唆された。今回は検討していないが水を飲むと話しやすいと訴える症例では効果が高い印象があったため、こちらも今後の検討課題としたい。

漢方製剤には顆粒剤、細粒剤、錠剤などがあるが、今回は錠剤を用いて検討を行なった。漢方独特の味や匂いが苦手な場合だけでなく、本疾患のような口腔内の潤い不足により、粉っぽさを嫌う症例に対しても錠剤は服用しやすい剤型といえる。実際のところ、数が多く錠剤を嫌がる患者もいるが、7割くらいは錠剤を選択している印象がある。

以上のことから、白虎加人参湯の錠剤は老人性声帯溝症に対して第一選択の治療法となり得る薬剤であることが示唆された。

〔参考文献〕

1) 角田晃一: 特集・見落としやすい耳鼻咽喉科疾患 Ⅵ.喉頭 3.声帯溝症, MB ENTONI, **157**: 113-118, 2013
2) 夏秋 優: 白虎加人参湯のアトピー性皮膚炎患者に対する臨床効果の検討. 日東医誌 **59**: 483-489, 2008
3) 海野雅浩 ほか: 高齢者の口腔乾燥症状に対する白虎加人参湯の効果－自覚症状の改善と証との関連性についての解析－. 日東医誌 **45**: 107-113, 1994
4) Sakaguchi M, et al: Effect of Byakko-ka-ninjin-to on salivary secretion and bladder function in rats. J Ethnopharmacol **102**: 164-169, 2005
5) Yanagi Y, et al: Mechanism of Salivary Secretion Enhancement by Byakkokaninjinto. Biol Pharm Bull **31**: 431-435, 2008